2020年度

事 業 実 績 報 告 書

学校法人東海大学甲府学園

１．　理事会・評議員会実施報告

２０２０年度の学校法人東海大学甲府学園理事会、評議員会を次のとおり開催した。

〔第１回〕　2020 年 5 月 26 日（火）

理 事 会（理事現在数 6 人、出席理事数 6 人、監事現在数 2 人、出席監事数 1 人）

評議員会（評議員現在数 13 人、出席評議員数 9 人、委任状による出席評議員 4 人、監事現在数 2 人、出席監事 1 人）

【議　題】

（1）2019 年度事業実績報告に関する件

（2）2019 年度決算に関する件

（3）任期満了に伴う評議員の選任に関する件

〔第２回〕　2020 年 9 月 20 日（火）

理 事 会（理事現在数 6 人、出席理事数 6 人、監事現在数 2 人、出席監事数 1 人）

評議員会（評議員現在数 13 人、出席評議員数 9 人、委任状による出席評議員数 4 人、監事現在数 2 人、出席監事数 2 人）

【議　題】

（1）2021 年度予算編成に関する件

（2）理事の競業に関する件

〔第３回〕　2021 年 3 月 26 日（金）

理 事 会（理事現在数 6 人、出席理事数 6 人、監事現在数 2 人、出席監事数 2 人）

評議員会（評議員現在数 13 人、出席評議員数 13 人、監事現在数 2 人、出席監事数 2 人）

【議　題】

（1）2021 年度事業計画に関する件

（2）2020 年度補正予算に関する件

（3）2021 年度予算に関する件

（4）学則の変更に関する件

２． 教育事業実施報告

学校スローガンを「伸ばせ人間力‼ 」と掲げ、人間性を伸ばす教育を明確化させ取り組んできた。その結果、「文武両道」が実践できる東海大学の付属校として、山梨県での評価があがり、単願での入学増員に繋がった。

以下に、２０２０年度の教育事業の概要を報告する。

（１）教職員の姿勢

建学の精神（使命）、学園のあるべき姿（目的）を常に意識し、教育に携わる者としての重い重責と自己の行動に対する厳しい倫理規範を念頭に職務を全うすることができた。また、個人情報の管理や危機管理意識も高く持ち、私学人として経営や環境問題を意識した上で、経費節減や省エネ対策に率先して行動していた。

（２）具体的な教育目標

①東海大学の建学の精神を具現化した「柔軟な思考力・協調する力・こころみ力・あきらめない力」の４つの力を育成し、豊かな未来を切り拓く人生の基礎作りをする。

⇒ 今後も継続して指導していく。

②生徒一人ひとりの確かな学力と思考力を育成し、東海大学での専門教育に繋がる学力を身に付けさせる。

⇒ 全学年において数学の学力向上が見受けられる。

③教員の授業力向上と ICT 教育機器・機材の活用による授業改革に取り組み、生徒一人ひとりの能力を更に向上させる学習方法（アクティブ・ラーニング等）を組織的に研究開発する。

⇒ 外部業者のアクティブラーナーの導入により、イメージの湧きやすい動画を通じて教員が研究し、スキルアップを図ることができた。

④生徒の未来設計を育成するキャリア教育を主軸とした進路指導に取り組み、生徒の個性や適性を十分に伸ばす進路指導によって進路実現を図る。

⇒　**進路指導部を中心に生徒向けのイベントを実施できた。**

⑤部活動、生徒会活動、学校行事等は生徒の自主性・協調性・責任感・連帯感等を育成する人間教育の場である。高い目標に向かって意欲的に取り組み、達成感と感動のある高校生活を送る生徒を育成する。

⇒　**野球部・柔道部の全国大会出場、ラグビー部・女子バレーボール部・男子バスケットボール部が県大会準優勝と上位進出を果たしたのを筆頭にどのクラブも意欲的な取り組みであった。また、体育祭は学年ごとの実施、建学祭は中止とした。**

⑥部活動等の課外活動では、教職員は熱意をもって生徒の心身の鍛錬を図り、心豊かで他人を思いやることができる明るい伸びやかな生徒を育成する。

⇒　**本校教職員はどんな場面でも生徒に寄り添い、良好な関係を築いていた。**

⑦生徒指導上の問題を減少させるために、事件・事故を未然に防ぐ取り組みを強化する。その結果生徒が健全に育つ環境を作り、保護者にとって安心してあずけられる学校を目指す。

⇒　**生徒指導部が主体となってあらゆる立案をし、全教員で指導を徹底した結果、生徒指導案件は前年と比較して大きく減少した。**

⑧校内の施設・設備の教育環境の更なる整備と充実によって安全で機能的な教育活動を展開する。

⇒　**２０２０年度実績：２号館トイレ改修、家庭科実習室改修**
照明 LED 化（体育館）

⑨GTEC 導入に向けた指導法を研究し、英語力アップの教育体制の構築を目指す。

⇒　**今後の課題としてさらに努力する必要がある。**

⑩グローバル教育への対応として、英語科を中心とした英会話能力の育成と GTEC 導入によって英語力を育成し、他の教科においても日本と

世界各国の歴史や文化の違いを学ぶ機会を設けることでグローバルな視点を広げる工夫をする。

⇒　今後の課題としてさらに努力する必要がある。

⑪SHIP（ハワイ中期留学）、ヨーロッパ研修旅行、生徒の才能を伸ばす学園オリンピック等、東海大学の付属高校ならではの一貫教育プログラムへの積極的な参加を推進する。

⇒　コロナ禍により中止が相次いだ。

⑫２０２１年度入学生から始まるコース制導入を始めとした学校改革の推進を図る。更に、在学中の生徒をいかに満足した高校生活を送らせてあげるかも重要であり、個別指導を通し、生徒一人ひとりの可能性を拓き、最高の進路を実現させる。

⇒　KSP（改革推進プロジェクト）と特進コース推進部とが連携し、コース毎の特徴を明確にしたことで、その準備は整った。在学生に対しては予備校講師による冬期講習から希望を募ったが、多くの生徒が希望し、取り組みも良好であった。

⑬「１年単位の変形労働時間制」を導入することで、過労死の原因になる長時間労働を防止し、教職員の健康を守るとともに、教職員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨き、生徒に対して効果的な教育活動を実践する。

⇒　教員と個々に面接することで課題をクリアーし、より働きやすい環境を整えた。更に継続した取り組みが求められる。

⑭全教職員が力を結集して生徒一人ひとりを大切に指導し、生徒・保護者と教職員が信頼し合い、高め合う豊かな人間関係を構築する。また、保護者や地域との連携を更に強化することで信頼され、選ばれる学校を目指す。

⇒　コロナ禍により連携の難しさはあったが、やれる範囲の活動は進めることができた。また、突発的な事案に対しても意欲的かつ積極的に取り組む教職員が増えた。

（３）募集定員の確保について

山梨県の大変厳しい少子化の中、生徒募集活動として県内中学校８０校の丁寧な訪問活動に加え、新たに２３４教室の塾訪問を実施した。またホームページの改良や進学説明会・個別相談会・ナイト個別相談会などの広報活動を例年以上に行うとともに、学業奨学生制度の効果的運用及び強化部の充実や駅伝部・女子ソフトボール部を強化部として新設した。

その結果、２０２１年度の新入生として２６４名を迎えることができた。

（４）上級学校への内部進学者の一定以上の確保について

改組改編が進む東海大学の理解を深めるため、三者面談や保護者文書にて学園の説明をしてきた。本校の付属推薦の達成値は５０％であるが、この年の目標を４０％に設定し進路指導を実施した。その結果、４０％近くの生徒が希望はしたが実績として３１％の進学率となった。

（５）部活動の奨励と推進

野球部の選抜高校野球大会出場を筆頭に柔道部の全国選手権大会出場など、全国レベルでの活躍がある一方、関東大会等は軒並み中止となり、本来進出が期待された種目の出場が叶わなかった。しかし、ラグビー部、女子バレーボール部、男子バスケットボール部は県大会で準優勝を飾るなど、関東大会出場に匹敵する活躍であった。

（６）教育内容の更なる充実

①基礎学力を向上させる

１年生の英語・数学の習熟度別授業により学力の低い生徒に対し少人数指導を行い着実な成果を得た。また、希望者による数学の勉強合宿や土曜課外の継続により基礎学力の向上を図った。更に、授業評価アンケートを実施することで、授業改善に取り組み教職員の意識を変えることができた。また、コロナ禍により急激に普及した ICT 教材のスタディーサプリ等の活用も有効であり、家庭学習定着の一助となりつつある。

②生活指導を徹底させる

生徒指導案件を減らすために、事件・事故を未然に防ぐ取り組みを生徒指導部が主体となって立案し、全教員で指導を徹底した結果、生徒指導案件が減少した。

③新しい授業や新しい教育活動に取り組む

全教職員がタブレットを持ち、授業での利用研究や職員会議・企画運営会議などのペーパレス化を図った。また、アクティブラーニングの授業方法を構築させるため、外部業者のアクティブラーナー導入により、イメージの湧きやすい動画を通じて教員が研究し、スキルアップを図ることができた。

④2021 年度生からのコース制導入に向けて

KSP（改革推進プロジェクト）と特進コース推進部とが連携し、コース毎の特徴を明確にすることができた。その結果、特進コース A には１４名、特進コース B には４０名、総合進学コースには２１０名の入学があり、今後の躍進が期待される。更にコース毎の研修旅行（修学旅行）を予定しており、特進コース A は HTIC での語学研修（８泊１０日）、特進コース B では東海大学沖縄地域研究センターを活用した西表島・石垣島での SDGs を視野に入れた研修旅行（４泊５日）、総合進学コースは九州の鹿児島・長崎・熊本での平和学習と防災学習をすることで進んでおり、学びの場へと大きく変更していく。

（７）人材を育成する（教員研修の充実を図る）

教員研修として、定期試験日の午後を利用し、東海大学の理解を深めるための学部学科研究等を行った。また、「新任教員実務研修」と称して若手教員を集め、年１０回の研修会を実施した。

（８）教職員がやりがいを持てる学校にする（PDCA サイクルの確立と働き方改革の推進）

年に３回ある面接や職員会議の場において、モチベーションが上がるように心掛け、教職員の奮起を促した。

３．　生徒募集実施報告

山梨県中学３年生進学希望者１７５名減という状況の中であったが、受験生は昨年の８２８名を大幅に上回り１，０８７名と２５９名増加した。

コース制を導入して初めての生徒募集となったが、コース別では、それぞれ３０名の募集定員に対し、入学者は、特進コースＡ１４名、特進コースＢ４０名、総合進学コース２１０名の合計２６４名となり、募集定員であった２８０名に達することができなかったが、この中で特筆すべきは、単願者の割合の大幅増加という結果であった。前年度も単願者入学の割合は増加傾向にあったが、今年度入試に関しては前年を１５ポイント上回った。

なお、部活動での勧誘生徒数は、前年度より１０人増という結果であった。県内中学生が減少する中で、強化部顧問および地区担当教員が丁寧に中学校などを回った成果として大幅減少期に入ったにもかかわらず、増加に向かうことができた。

（１）進学説明会の実施

①第１回「学校説明会」（中学生・保護者対象）

・実施日：2020 年 7 月 11 日(土)

・内　容：学校概要説明・コース制説明・入試改革説明

・参加者数（オンライン希望者を含む）

：中学生　466 名　保護者　391 名

②「体験授業」（中学生・保護者対象）の実施

・実施日：2020 年 8 月 29 日（土）

・内　容：学校説明会（オンライン）、体験授業

・参加者数：中学生　89 人、保護者　75 人

③「部活動体験入部」の実施

(野球部・柔道部・剣道部・ラグビー部・女子バレーボール部・男子バスケットボール部・女子ソフトボール部・駅伝部・吹奏楽部・チアダンス部が対象)

・実施日：2020 年 9 月 26 日（土）

・内　容：各部活動ごとに体験および説明、施設見学

・参加者数：中学生 108 人　保護者 87 人

④第２回「学校説明会」（中学生・保護者対象）

・実施日：2020 年 10 月 3 日(土)

・内　容：学校概要説明・コース制説明

山梨県公立高校入試問題解説

・参加者数：中学生　127 名　保護者　123 名

⑤「在校生・卒業生・保護者が語る東海大甲府」

（中学校・保護者対象）の実施

・実施日：2020 年 11 月 28 日（土）

・内　容：在校生・卒業生にそれぞれの視点で本校の教育内容を語ってもらう　　終了後、個別相談会を実施

・参加者数：中学生　112 人、保護者　105 人

（２）中学校訪問の実施

・校長による全中学校訪問（年度始め）

・生徒募集地区担当者による中学校訪問（5・10・12 月に県下全中学校対象）

・校長による塾開拓

（３）入試説明会（中学校教諭対象）の実施

・実施日：2020 年７月１日（水）

・内　容：学校改革の説明（コース制導入、入試改革）・高大一貫教育の特色と魅力・進路実績などの本校の教育内容と 2021 年度入試要項の説明

・参加者数：　68 校（全 80 校）、83 人

（４）入試相談（中学生・保護者対象）の実施

①「土曜個別相談会」の実施

・実施日：2020 年 10 月 17 日（土）・11 月 14 日（土）

12 月 12 日（土）・2021 年 1 月 16 日（土）

・内　容：個別の進学相談と進学説明

・参加者数：中学生・保護者　38 組

②「ナイト個別相談」の実施

・実施日：2020 年 12 月 16 日(水)・2021 年 1 月 13 日(水)

1 月 27 日(水)・2 月 3 日(水)・

・内　容：個別の進学相談と進学説明

・参加者数：中学生・保護者 11 組

（５）広報活動の実施

・学習塾を対象とした説明会

実施日：2020 年 9 月 25 日(金)

内　容：本校の概要説明、2021 年度入試要項の説明

参加者：33 名

・ホームページの更新

・山梨日日新聞への広告掲載

2021 年度からの学校改革をＰＲ

・ＰＴＡ、外郭団体との連携

４．財務の概要

《2020 年度決算の概要》

学校法人東海大学甲府学園の 2020 年度決算は、公認会計士及び監事の監査を経て、2021 年 5 月 28 日に開催された理事会・評議員会において承認された。

2020 年度の事業計画に基づき、生徒募集計画、人事計画および施設設備計画を実施した。

生徒募集に関しては、中学校対策と部活動での生徒募集により、募集定員300名の生徒確保を目指したが、新入生数は290名（対前年度22名増）と募集定員に達することはできなかったものの、単願率は、大きく伸ばすことができた。

中学卒業者数が減少の一途をたどる中、安定した生徒募集のためにも単願率を引き上げる施策を実行していかなければならない。

学生生徒等納付金収入は、在籍者数が対前年度36名増の814名となったため、納付金収入が対前年度5％増の474百万円となった。

人事計画に関しては、学校改革を推進するため、専任・特任教員7名増となったため、対前年度9％増の489百万円（退職金を除く）となり、人件費比率が60％となった。

施設設備計画に関しては、当初の事業計画に沿った事業を行った。主な施設・設備関係事業は次のとおりである。

◎2号館トイレ改修工事（総事業費：75，570千円）

建築後29年が経過し、老朽化と共に和式主体のトイレを洋式トイレに改修することにより学校生活環境の改善を図った。

◎家庭科調理実習室改修工事（総事業費：23，570千円）

老朽化した調理実習台を更新し、ガスからIHクッキングヒーターへ切り替えて、安全に調理実習ができるよう改善した。

併せて、保育の授業も実施可能な実習台に更新し、教育環境の向上を図った。

◎受変電設備更新工事（総事業費：22，300千円）

製造後20年以上経過し、事故に至る可能性のある設備を更新した。

◎照明LED化工事（総事業費：11，000千円）

年次計画による照明LED化工事の1年目の事業である体育館照明LED化工事を行った。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い2020年4月から6月中旬まで学校閉鎖とし、この間、生徒の学習補償のため教材の郵送や一部生徒へのタブレットの貸し出しなど対応を行った。

また、学校再開後の感染症対策として、サーモカメラの購入、教室除菌、消毒用アルコールの購入などの費用、更には修学旅行のキャンセル料の負担などで支出増となったが、学校閉鎖による支出減と感染症対策補助金により増額分をほぼ補填することができた。

なお、トイレ改修工事が衛生環境の改善となることから、私立高等学校等施設高機能化補助金の適用となり、併せて山梨県私立学校トイレ手洗い場自動水栓整備事業

にも適合し、合計23，200千円の補助金が交付された。

資金収支計算書において、収入総額は1，282百万円（対前年度比45百万円、3．5％増）、これに対し支出総額は、928百万円（対前年度比36百万円、3．9％減）となり、その結果、支払資金は353百万円（対前年度比8千万円、29．3％増）となった。

事業活動収支計算書においては、経常収入888百万円から経常支出868百万円を差し引くと、経常収支は20百万円となる。これに特別収支15百万円を加えると、基本金組入前当年度収支差額は35百万円となる。更に、基本金組入額43百万円を差し引くと当年度収支差額はマイナス8百万円となった。